

研究テーマ

「古代における古墳の種類と形状の秘密について
—古代群馬の前方後円墳に視点を当てて—」

富岡市立富岡中学校

第2学年 井上 乙葉

1 研究の動機と目的

「前方後円墳」とは、考えてみれば奇妙な名称である。

文字通りに解釈すれば、前が方形で後が円形の古墳とすることになる。「前方後円墳」は、円形と方形（台形）の盛り土をつなぎ合わせた、古墳時代を代表する形と言われている。私はとても興味深く魅力的な形状であると感じた。

また、古墳について調べていくと、日本の巨大古墳の上位は全て「前方後円墳」ということが分かった。私が住む群馬県には、東日本の墳丘長が 150m の巨大古墳のうち、1 位、3 位、4 位の「前方後円墳」がある。それが、天神山古墳（太田天神山古墳）、浅間山古墳、別所茶臼山古墳（円福寺茶臼山古墳）である。いずれもヤマト王権と密接な関係を有した「毛野国」の大首長、あるいはその一族の墓と推測される巨大な古墳と言われている。

「前方後円墳」、一体誰がこのような名を付けたのであろうか。形状の意味、またどんな活用をされたのだろうか。群馬県にも多く作られた「前方後円墳」に興味を持ったため、今回、調査することにした。

2 調査方法

(1) 図書館（富岡市立図書館等）

古墳時代等の群馬県に関連した書籍を探し調査する。

(2) 群馬県立博物館、前方後円墳遺跡 等の調査

群馬県立博物館等を観覧し、古墳の種類、形状等について調査する。

天神山古墳（太田天神山古墳）、浅間山古墳、別所茶臼山古墳（円福寺茶臼山古墳）の現地調査をする。

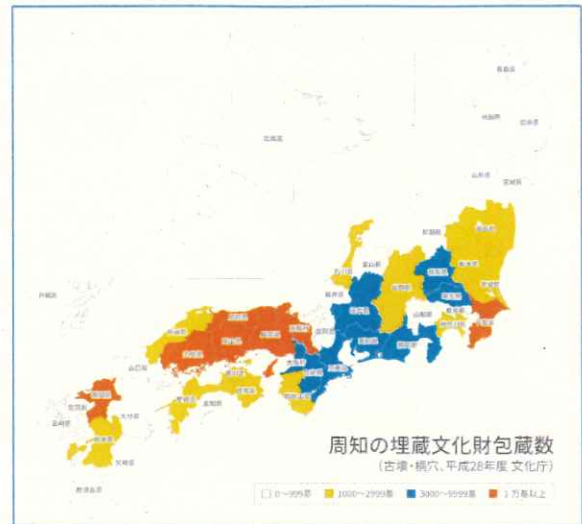
(3) インターネット等

現地調査等で調べきれなかった内容についてはインターネットで調べる。

3 調査結果

(1) 都道府県別古墳の数について

文化庁がまとめた埋蔵文化財関係統計資料の「周知の埋蔵文化財包蔵地数」(平成28年度版)によると、全国には15万9623基の古墳・横穴が確認されている。都道府県別では、①兵庫県1万8851基②鳥取県1万3486基③京都府1万3016基④千葉県1万2765基⑤岡山県



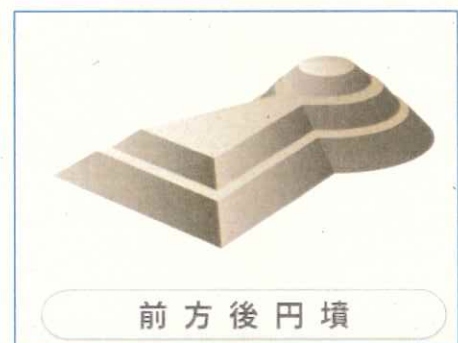
1万1810基となっている。一方、北海道、青森県、沖縄県には古墳・横穴が確認されていない。この地図を見ても群馬県には多くの古墳・横穴等が確認されていることが分かる。

(2) 古墳の種類について

古墳の形状は大きく分けて6種類あり、その内訳は「前方後円墳(ぜんぽうこうえんふん)」、「前方後方墳(ぜんぽうこうほうふん)」、「円墳(えんぷん)」、「上円下方墳(じょうえんかほうふん)」、「方墳(ほうふん)」、「帆立貝形古墳(ほたてがいけいこふん)」などがある。

① 前方後円墳

石棺を収める後部の円形に方形の突き出しをつけた形状であり、巨大古墳に多く見られる形状である。主に3世紀～7世紀頃にかけて数多く築造され、円墳と方墳を組み合わせたような形状は、日本の古墳独特の特徴であり他に類を見ない。



【日本の代表的な古墳 ※アンダーラインは群馬県内の古墳】

天神山古墳、浅間山古墳、別所茶臼山古墳、昼神車塚古墳、柴谷古墳、今城塚古墳、二子山古墳、郡家車塚古墳、岡本山古墳

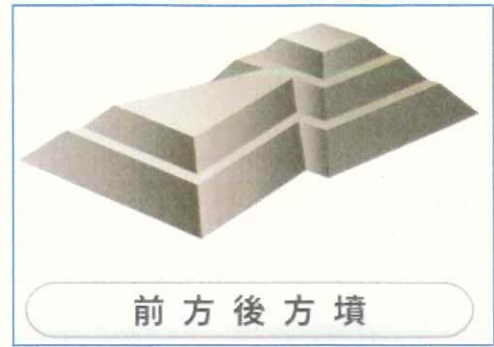
② 前方後方墳

方丘の一侧に長方形台状の施設を付加した形をとる。前方後円墳の円丘部を方丘にしたもので、墳形以外の点では両者に共通するところが多く、密接な関係にあったものと思われる。しかし、前方後円墳に比べ、数の上では圧倒的に少なく、

現状では200例余りが知られている。墳丘規模も相対的に小さく、最大でも全長約180mにすぎない。古墳時代前期のものが多い。

【日本の代表的な古墳 ※アンダーラインは群馬県内の古墳】

元島名將軍塚古墳、前橋八幡山古墳、勅使塚古墳、丸山古墳、姫塚古墳、藤本観音山古墳、愛宕塚古墳、大日塚古墳、侍塚古墳

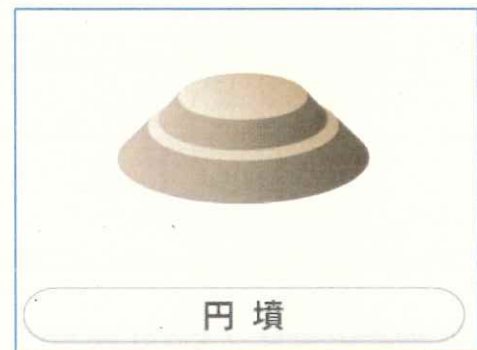


③ 円墳

古墳時代を代表する墳丘形式の一種であり、平面が円形をしている。古墳時代を通じて築造され、直径数メートルのものから数百メートルくらいのものであるが、大半は中型・小型のものが多い。

【日本の代表的な古墳 ※アンダーラインは群馬県内の古墳】

平井地区1号古墳、伊勢塚古墳、阿武山古墳、塚原古墳群、將軍塚古墳（鎌足公古廟）、將軍山古墳、海北塚古墳、能因法師墳



④ 上円下方墳

古墳の墳形の一つで、上段を平面円形に、下段を平面方形につくった2段築成のものを指す。これまで明確な例がなく、その存在を疑問視する人もいたが、1979年に奈良市山陵町石のカラト古墳



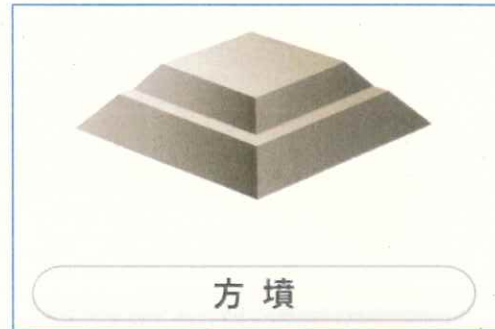
が調査され、好例が検出された。

【日本の代表的な古墳】

野地久保古墳、山王塚古墳、天文台構内古墳、武蔵府中熊野神社古墳、清水柳北1号墳、石のカラト古墳

⑤ 方墳

墳丘の平面形が方形、つまり四角形になっている古墳のことで、円墳と同様に古墳時代の全期間にわたり数多く築造された。



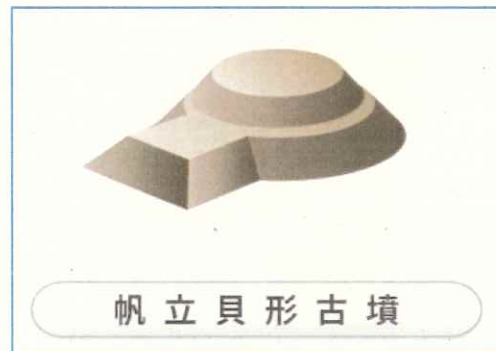
【日本の代表的な古墳

※アンダーラインは群馬県内の古墳】

愛宕山古墳、柴崎浅間山古墳、安満宮山古墳、鼻摺古墳

⑥ 帆立貝形古墳

円墳に小さな方形の張り出しをつけた形状の古墳である。一見すると前方後円墳に似ているが、前方部の張り出しが小さく小規模のものが多くどちらかというとも円墳に張り出しをつけたような形状の古墳である。古墳全体の平面の形が帆立貝（ほたてがい）の形をしているためこの総称がついた。



【日本の代表的な古墳 ※アンダーラインは群馬県内の古墳】

女体山古墳、前塚古墳、番山古墳

(3) 群馬の代表的な前方後円墳について

① 天神山古墳（太田市内ヶ崎町）

天神山古墳は男体山古墳ともよばれ、東武伊勢崎線太田駅の東方約1kmの平地にある。墳丘の長さは210mで、東日本では最大、全国でも



【天神山古墳にて】

30位以内(近畿地方を除くと3位)の規模を誇る大前方後円墳である。

墳丘の周りには二重に堀が巡らされ、北東には天神山古墳に付属する小古墳も造られている。江戸時代には、棺(ひつぎ)として使われた大型の長持形石棺が発見された。これまでに円筒埴輪のほか、家、楯、鶏や水鳥の形象埴輪も発見されている。埴輪は墳丘上のほか、中堤帯の一部にも立てられていたことも分かっている。古墳が造られた時期は埴輪の特長などから5世紀前半と推定される。大型の長持形石棺が使われたことや埴輪の特徴から、古墳に埋葬された人は畿内ヤマト政権と強いつながりを持っていた毛野国の大首長とされているが、ほかの説もあり明らかではない。

② 浅間山古墳(高崎市倉賀野町)

浅間山古墳は、墳丘全長171.5メートルの前方後円墳である。前方部は2段に造られていて、長さ66.3メートル、高さ5.5メートル、後円部は3段に造られていて径105メートル、高さ14.1メートルの規模



【浅間山古墳にて】

がある。後円部に比べて前方部が小さいことが特徴である。墳丘の周りには平面が盾形をした内堀があり、その外側には中堤と外堀があることが分かっている。発掘調査などで、円筒埴輪の破片や剣形の石製模造品が確認されている。前方部が小さいこと、盾形の堀をもつこと、確認されている埴輪の特徴から、4世紀後半に造られたと考えられている。浅間山古墳は、群馬県内で太田市の天神山古墳に次いで第2位の規模を誇り、築造された当時は東日本最大の古墳であった。

③ 別所茶白山古墳(太田市別所町)

太田市西部、宝泉(由良)台地の西端に造られた、長さ168mの大前方後円墳である。墳頂部や墳丘裾部は、後世の寺や神社等の建物を造った時に削られて、原形がそこなわれているが、市内では天神山古墳に次いで第2位、県内でも



【別所茶白山古墳にて】

第3位の規模を誇っている。中ほどにある平坦面には円筒埴輪が並べられている。墳丘の周りに巡らされた堀はほとんどが埋まっているが、後円部の北側に今もその名残がある。造られた時期は、5世紀前半頃と考えられている。「宝泉茶臼山古墳」、「円福寺茶臼山古墳」とも呼ばれる。

(4) 前方後円墳の名付け親について

前方後円墳の名付け親は「蒲生君平（がもう くんぺい）」という人物である。

蒲生君平は、明和5年（1768年）、現在の栃木県宇都宮市の商家で生まれた。蒲生君平は、先祖が戦国時代の名将、蒲生家にあると教えられ、学問で身を立てようとした。

彼は、徳川光圀の水戸学に影響をうけ、光圀の編んだ「大日本史」を補てんする資料、神祇・山陵・姓族・職官・服章・礼儀・民・刑・兵についてまとめた「九誌（志）」を編さんすることを決意した。彼は、序列や秩序を重んじた世界を求め、山陵（天皇陵）を整理することは、天皇を敬い、自らの先祖を敬い、主君を敬うものにつながっていく、という考えから、九誌の中で真っ先に『山陵志』に取り組んだ。数多くの陵（天皇陵）を見ていく中で、あの独特な形状や「前方後円墳」の起源についても調べるようになった。そして地名について念入りに調査した結果、「車塚」という名が多いことが分かり、古墳は死者を運ぶ車をかたどったものだと彼は考えるようになった。中国の書物にも精通していた蒲生君

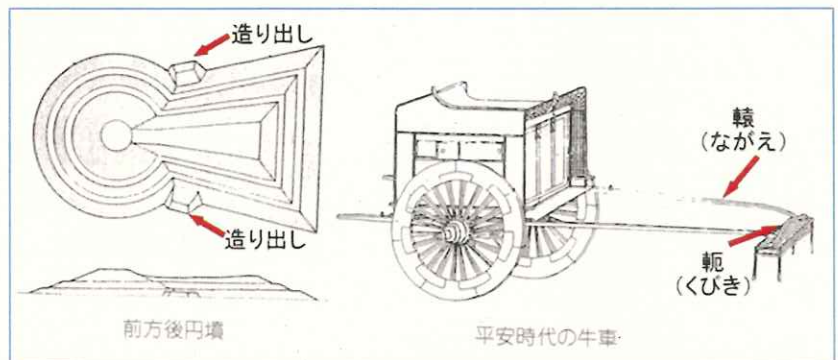
平は、車塚という地名と、中国の古文書の柩車（銅馬車、輜輳車/おんりょうしゃ）のイメージと、車塚という地名を結び付けたのである。



【蒲生 君平】



【山陵志】



【前方後円墳の形状と平安時代の牛車のつくり】

それから、前方部は車を引っ張る取っ手の部分、後円部は棺を乗せる台座の部分、中間の左右にせり出した部分を車輪と想定し、「前方後円墳」としたという。

(5) 前方後円墳の形状と祭祀について

① 形状について

「鍵形の様な形」である「前方後円墳」の形状については江戸時代以降、様々な学説が出されていることが分かった。丸い形の円墳と四角い形の方墳が合わさったとする説や中国の墓のあるものに似ているという説などがある。現在のところ有力な説は以下のようなものである。

前方後円墳があらわれる前の時代、すなわち弥生時代に、土を盛り上げて、周囲に堀をめぐらせた墓がある。これらの中で、堀の一部がとぎれて、陸の橋となったものがあらわれる。この陸の橋の部分を発掘すると、“おまつり”に使った土器が発見されることがあり、ここで死者を送る“まつり”が行われたと考えられている。

弥生時代の土を盛り上げた墓には、丸い形のもの、四角い形のものなどがあるが、丸い形の墓で、“まつり”を行う陸の橋の部分が大きく発達したものが、前方後円墳になったと考えられている。結論として、弥生時代にあった丸い形で堀をめぐらせた墓の、堀がとぎれた陸の橋の部分が発達して、「鍵穴」の形になったということである。

② 前方後円墳等で行われた祭祀について

前方後円墳では、墳頂と墳裾で重要な祭祀が行われたとされている。我々の祖先が



【かみつけの里古墳祭りの様子】



【かみつけの里 八幡塚古墳にて】

自然に神威を感じ、神々を畏れ敬って、祈りを捧げてきた姿が想像できる。奈良時代の風土記には、様々な場所にすむ神が人々の往来を妨げ、恐れられていたことが記されている。そうした神々を鎮めるために、さまざまな奉獻品を手向けた場所が古墳であり、祭祀遺跡と考えられている。

また、西大室丸山遺跡(前橋市大室町)では古墳3基と巨石祭祀遺構が発見された。この遺跡は、北に向けて赤城山を一望できる場所にあることから、明らかに赤城山に対する信仰から生まれたものと考えられる。巨石があり、その巨石はほとんど地盤とつながっているが、一部の巨石はもとの位置から動いている。赤城信仰や巨石祭祀遺構を考える上でも非常に重要な遺跡と言われている。このように古墳と祭祀は密接なつながりがあったことが想像できる。

4 考察及びまとめ

古代における古墳の種類と形状の秘密について調査してきた。文化庁がまとめた埋蔵文化財関係統計資料によると、古代群馬において多くの古墳・横穴等が確認されていることが分かった。当時の日本は近畿地方が中心であったことも理解できたが、その頃の群馬は、ヤマト王権が列島統一のために最も重視した東国の中でリードする存在であることも明らかにできた。また書籍等の調査を中心に、古墳の種類について調べることができた。様々な古墳の種類を調べる中で、時代背景と古墳の種類との関係や、「上円下方墳」の形状に興味が高まった。この形状については今まで好例がなく発見された数も少ないことが分かった。ぜひ、県内にとどまらず、全国的に調査範囲を広げ、今後、追究していきたいと考えている。

以前より興味があった「前方後円墳」という名称については、前方後円墳の名付け親として「蒲生君平」という人物に行きつくことができた。蒲生氏は、数多くの天皇陵を調べ

ていく中で、あの独特な形状や「前方後円墳」の起源についても調べるようになったという。時代は違えども、私と同じ「古墳の形状」に興味をもち、念入りに調査した人物がいたことは大変驚いたし、親しみをもつことができた。また、予想していなかった県外での調査になってしまったが、実際に生誕の地である宇都宮市まで調査に訪れ、生誕の碑や蒲生氏由来の銘菓を発見できたことは本当に楽しかった。今まで、歴史上の人物をこんなにも身近に感じ、親しみをもてたことがなかったので、今回の調べ学習をより有意義に感じることができた。東国文化副読本の1ページ「はじめ



【蒲生君平 生誕の碑】



【銘菓 君平羊羹】

に」には、「古墳時代を中心に、現在の関東地方で栄えた文化を『東国文化』といいます。」とある。都道府県という概念がなかった古代という時代である。先進地域であった群馬のみで考察するのではなく、埼玉、栃木等の古墳等と比較したり、他地域との違いを分析したりすることで、より群馬の良さが表現できると思った。今後の研究の課題である。

最後に群馬の代表的な前方後円墳について実地調査を行った。現地に行くことで、インターネットなどでは感じられない古墳の壮大さや迫力が伝わった。これからも現地に足を運び、東国文化についてより深く追究していきたいと思った。

5 参考文献

- ・「ゼロから学んでおきたい古墳」 國學院大學メディア 青木敬
- ・「東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～」 群馬県
- ・「栃木県埋蔵文化財センターQ&A」 栃木県埋蔵文化財センターホームページ
- ・「前方後円墳祭祀とは何か」 広瀬 和雄
- ・「邪馬台国の会」 玉川学園
- ・「東国の千年の都 10周年記念展示 いまなお 光放ちて」平成28年度前橋高崎連携事業文化財展資料
- ・「文化財のお土産 誰が名付けた 前方後円墳」 宮嶋尚子
- ・「とちぎふるさと学習」 栃木県教育委員会